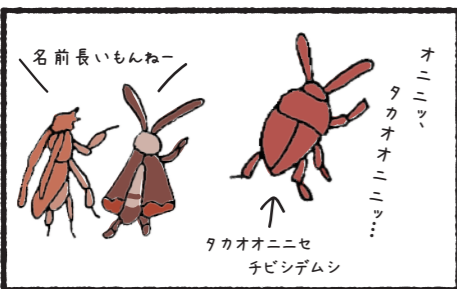
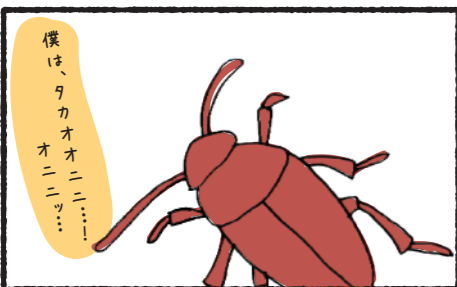
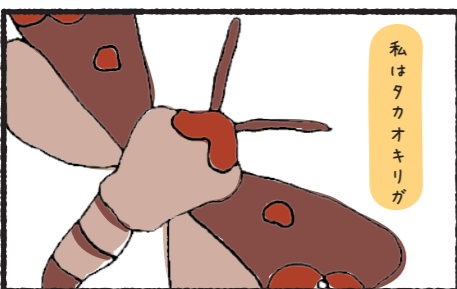
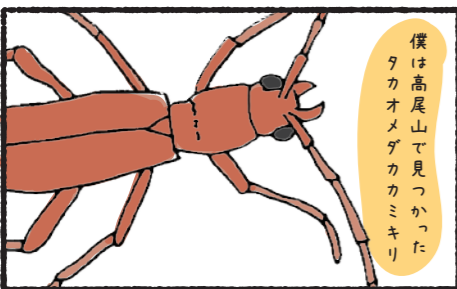


たかおさん

「僕の名は」の巻



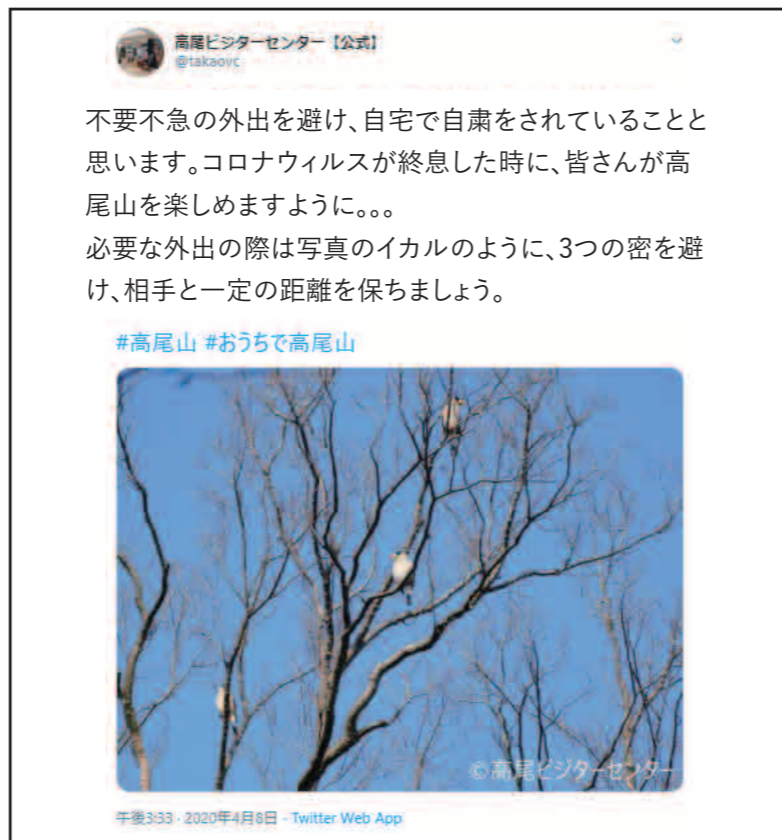
作・絵：ふくざわ

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

Twitterでふりかえる高尾山ニュース!

2018年の4月より、Twitter・Facebookをはじめました！山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。では、4月～6月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

3密を避けるお手本にされたイカル (2020/4/8)



新型コロナウイルスの影響で外出自粛となり、Twitterでは旬な自然情報をお伝えすることが出来ないさみしい期間となりました。今後は新たに設けられたルールとともに、周りの人に配慮した登山を楽しんでいただけたらと思います。

解説員 くらむ vol.22

見えないものをみる!

夏の通勤時の楽しみはセミ探し。鳴き声の方向へじっくり目を凝らし、幹とそっくりな色合いのセミを見つけると、大きな達成感に浸ることが出来ます。ただ、エンゼムの「ジ〜」という金属的な声は反響してしまふのか、中々姿をとらえることができません。夏も課題は続きます。

また、ある日の夜。数人で生きもの観察を終え、おしゃべりをしながら一ノ路を下っていたとき、こちらを向いていた一人の「あ、テン!」という声に慌てて振り返ると、すでにテンは走り去った後。最後まで気を抜かず、全方位へアンテナを張り続けていた人だけに与えられた喜びでした。

そしてまた、ある日の夜の観察会で霞台園地から見た、一面に広がる街明かり。高尾山は山地と市街地の境に位置することを改めて感じる風景でした。長く高尾山で調査をしている方によると、かつては多摩丘陵などの里山や河川沿いの森がもっと多く見られたとのこと。きつと、森を介して山と平野部を多くの生きものたちが行き交っていたのだろかな、と想像されました。

目の前にあるものの中に、見えないけれども大事な何かがかくされている!...ということを忘れずに日々、果てしない自然に「目」を凝らしていきたいな、と思っています。

解説員 もちつき

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。



vol.60 季刊
2020年夏号

これまでに高尾山で発見された植物は60種以上。その中にはタカオスミレやタカオヒゴタイなど和名や学名にタカオとついている植物があります。標高599mの低山の高尾山で多くの植物が発見されている理由とは…?

タカオスミレ

1928年 ヒカゲスミレの葉の裏が赤褐色のものを中井猛之進博士が高尾山で発見し、変種として発表。その後、松山倉三氏が品種に改めた。



高尾山で

発見された植物



タカオイノデ

渡嘉敷裕氏が発見し、1959年に倉田悟博士が新種として発表。

学名 *olytichum* × *takaosanense*

学名にもタカオの名前がはいっているよ

タカオヒゴタイ

1915年 中井猛之進博士が新種として発表。

【高尾山で発見された植物】

- タカオヒゴタイ ヒレノブキ ボウズシラヤマギク オンガタヒゴタイ マルバカシワバハグマ レモンエゴマ トラノオジソ キランニシキゴロモ ヤمامソソバ
- ナガホハナタデ タカオイノデ シロミノアオキ タカオスミレ コボトケスミレ ナガバノアケボノスミレ ヒゲナンシオカスミレ アカコミヤマスミレ シロバナヒナスミレ
- ヤグルマカエデ フイリイナモリソウ ホシザキイナモリソウ シロバナオオバジャノヒゲ タカオワニグチソウ トガリシオデ ホウチャクチゴユリ ジンバハウチャクソウ
- タカオンケチシダ オオツクバネガシ サツキヒナノウスツボ ミヤマクマザサ アサカワソウ ボウズチカラシバ タカオスゲ アケボノミヤマシキミ ジンバイカリソウ
- アケボノオオフジイバラ ヤブザクラ アズマナシ オンガタイノデ オオツルウメモドキ タカオホオズキ タカオホロシ イトホロシ ウスゲヌスビトハギ ケヒメカンスゲ
- ムラサキオニシバリ ウスベニリンソウ ムラサキイチリンソウ ケタニタデ ホソバノミミガタテンナンショウ キロミミガタテンナンショウ エダウチミゾシダ
- ヤエキツネノカミソリ ベニガクウツギ フイリタマアジサイ ヨウラククサアジサイ ウスベニアカショウマ タルミヤシャブシ タカオヤブマオ ミドリミツバウツギ
- タカオコバノガマズミ シロバナフクシマシャジン

<出典：高尾山の花と木の図鑑/菱山忠三郎著>

要因1 高尾山は多様な植物を育む山！

～暖温帯と冷温帯に分かれている～ ※詳しくはのぶすまVol.46も見てね！

高尾山は暖温帯と冷温帯の2つの気候の境目に位置しています。この環境によって北側斜面に冷温帯の植物が、南側斜面には暖温帯の植物が生育しています。2つの気候の境目であることが多様な植物を育む要因の1つとなっています。

～殺生禁断の教え～

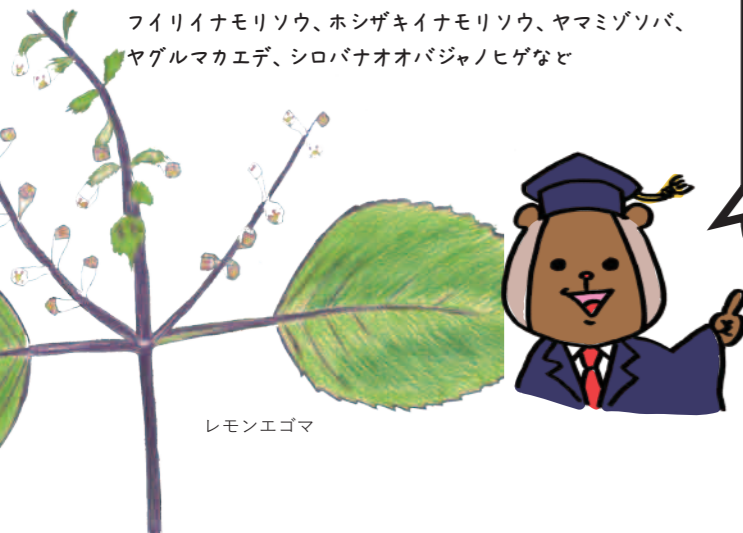
高尾山の森林は奈良時代の開創と言われている高尾山薬王院有喜寺の寺領として信仰上の理由からずっと守られてきました。その後、中世になっても八王子城防衛の自然要害という戦略上重要な位置にあるという理由から保護政策は変わらず、寺領から幕府直轄、帝室御料林などと常に山は保護・管理されてきた事が、高尾山の植生が残されている要因の1つとなっています。



要因2 高尾山は研究者が魅了された山！

～日本の植物分類学を独学で切り開いた牧野富太郎博士も高尾山でたくさん新種を発見していた！～

【牧野博士が高尾山で発見した植物】レモンエゴマ、
ファイリナモリソウ、ホシガキイナモリソウ、ヤマミゾバ、
ヤグルマカエデ、シロバナオオバジャノヒゲなど



牧野富太郎博士とは・・・
「植物学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士は、日本で1600種以上もの新種の植物を発見し、命名した人です。
交通機関が発達していない時代に、全国各地を自らの足で歩いて調査を行いました。調査した植物はジャガイモやキャベツといった野菜なども含まれ、研究対象の幅が広がったことも、植物学の父と呼ばれる所以になっています。
私たちの身近にある何気ない植物をつぶさに研究したことで、高尾山でも数々の新種を発見したのですね！



～牧野富太郎博士が高尾山で採集・発見した植物は10種以上～

牧野富太郎博士が記した日記に残っているだけで、1906年4月14日（44歳）～1933年10月4日（71歳）の間に高尾山に20回訪れていることがわかっています。（※高知県立牧野植物園情報提供）
牧野富太郎博士が高尾山で採集・発見した植物は10種類以上あります。
新種の植物が発見される高尾山は牧野富太郎博士にとってワクワクする調査地だったのではないかと想像してまいります。

まとめ

高尾山は標高599mの低山でありながら、特殊な環境と歴史的な背景から豊かな植物を観察できる山です。なぜ高尾山で多くの植物が発見されたのか背景を調べていくと、明治より牧野富太郎博士をはじめ、多くの研究者が高尾山の植物に魅了されたこと（研究が進められたこと）が要因の1つであると感じました。和名や学名に「タカオ」と命名するところに高尾山への愛を感じてしまいます。高尾山で発見された植物の中には数が少ないものが多いため、時代と共に環境が変化する中でそれらの植物がこの先も観察できる高尾山であってほしいと願っています。

<解説員 おぎき>



平成・令和に受け継がれた 武州下原刀の歴史

2019年4月25日「平成最後の下原刀、164年ぶり高尾山へ奉納」というニュースが流れました。今回は、戦国時代から幕末まで続く、武州唯一の刀工群の製作した郷土の刀「武州下原刀」についてご紹介します。

武州下原刀とは、戦国時代から幕末にかけて武蔵国多摩郡の恩方村下原（現在の八王子市恩方）周辺で活躍した刀工群が製作した刀です。代表的な刀工として、始祖である周重、その息子の康重、照重、さらにその息子の廣重などがいます。周重の息子たちの名前に用いられた漢字は、それぞれ北条氏康の康と、氏照の照の字を拝領したとされ、下原鍛冶は当時関東一帯を治めていた北条氏より、厚い庇護を受けていました。
北条氏は、薬王院の御本尊である飯綱大権現を信仰しており、下原鍛冶は薬王院へ過去23回もの刀の奉納をしています。その24回目の奉納が、2019年に行われたというわけです。江戸末期以来、その製法は廃れてしまいましたが、刀匠の佐藤重利さんが20年にわたり原料や製法について研究した結果、現代に蘇りこの様な機会を生むことが出来たそうです。
小田原攻めによる北条氏滅亡後、関東を統治することとなった徳川家康は、武田氏や北条氏の遺臣をはじめ、敵の抱える刀工を弾圧追放することなく、むしろ江戸幕府の御用鍛冶職として下原刀工に特別な地位を与えます。家康の度量の深さにあつたのです！きつと、地元の刀として八王子千人同心なども下原刀を携え、治安維持にあたりたりしていたのでしよう。
その後も、武用刀として全国的に評価され流通しましたが、刀剣界全体の衰退期を迎え、徐々に刀工は少なくなっていました。

このような歴史の中、下原刀が注目を浴びた出来事を1つご紹介いたします。それは、中里介山の小説『大菩薩峠』（1913～1941）の主人公、『機龍之介』の愛刀として下原刀（武蔵太郎安國）が描かれたことです。中里介山といえば、この大菩薩峠を執筆中に住んだ草庵跡の碑が、6号路の途中の高尾病院裏に残っています。これらの事実からも、中里介山がこの土地の歴史や文化に強い関心を持っていたことが伺えます。
下原刀は、戦国期の刀として実践に適した作りであり「折れず、曲がらず、よく斬れる」と評価されています。独特の鍛錬法による、下原肌と呼ばれる連続した渦巻き模様の刃紋が大きな特徴の一つで、現代ではその優美さが美術品としても価値を得ています。
改めて、1855年（安政2）以来、24本目となる薬王院への奉納という出来事は、途切れかかった下原刀の歴史を繋ぐ、非常に重要なものであったと実感します。私はこの記事の執筆中、古物商を営む父に本物の下原刀を見せてもらったのですが、刃の厚みや反り、刻まれた作者の名を目の当たりにし、強く心揺さぶられるものがありました。八王子の誇るこの下原刀が、この先も多くの人々の心に刻まれ続けることを願います。

<解説員 うめだ>

参考文献：武州下原刀図譜 編集委員会編（2011）『武州下原刀図譜』日本美術刀剣保存協会、福生市郷土資料室編（1998）『特別展 武州下原刀展』川福生市教育委員会

解説員の



vol.18

オオミスアオ

一度は会いたいキレイな蛾

オスの触角は鳥の羽みたいにフワフワ！



前翅のフチは赤い

大きさ(開帳)8～12cm

水色がかかったミントグリーンの翅が綺麗な蛾です。その色の美しさから、「オオミスアオ（大水青）」という名前がつけました。翅も綺麗ですが、実は体がつまみつぶれもふもふ好きにはたまらない昆虫なのです。くりつとした黒い目と相まってぬいぐるみのような…。その可愛さにハマるかもしれません。「蛾は気持ち悪いからやだなあ…」と思わずに一度観察してみませんか？

観察時期：4～5月、7～8月

（成虫は初夏と真夏の2回出現）

見られる場所：1号路、6号路など。

夜の灯火に集まりやすい

<解説員 かわまた>